

# 上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査をお受けになる方へ

上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査は、経口もしくは経鼻的に内視鏡(スコープ)を食道から胃・十二指腸に挿入し、のど(咽頭・喉頭)、食道、胃そして十二指腸の一部を観察する検査です。必要に応じて、ごく少量の組織を採取し(このとき痛みはありません)、詳しく調べることもできます。何もなしにスコープを挿入すると、咽頭反射(オエツとなる反射)が起こりますが、のどの奥(咽頭)に局所麻酔薬をスプレーして麻酔を十分に行うので、比較的楽に検査を受けることができます。スコープが食道に入ると息が詰まった感じがすることがありますが、呼吸の通路である気管と食道は通路が違うので、ちゃんと呼吸はできます。

のどの麻酔の効果は約1時間で自然に消失しますが、それまではむせやすいので飲水や食事はしないで下さい。局所麻酔だけなので運転可能です。

通常はのどの麻酔(咽頭麻酔)だけで十分検査が可能ですが、それでも苦痛な方には2つの方法があります。

## A. 経鼻内視鏡検査

鼻の通りをよくする血管収縮薬のスプレーを行った後、検査直前に局所麻酔薬ゼリーを鼻の穴から少量注入して鼻粘膜の麻酔を行います。極細経の内視鏡(経鼻用スコープ)を鼻の穴から挿入しますが、この方法は咽頭反射(オエツとなる反射)を誘発する舌の根本付近を通過しないので、のどの麻酔(咽頭麻酔)なしに楽に受けていただけます。

ただ、経口用スコープに比べ、内視鏡が細い分、レンズが小さいので画質が劣ります。局所麻酔だけなので運転可能です。

## B. 鎮静剤を使用する方法(詳しくは「鎮静剤使用について」をご覧ください)

咽頭麻酔に加えて、鎮静剤を静脈注射し、意識をもうろうとさせて検査する方法です。鎮静剤の影響は長く残るので、検査後少なくとも1時間は回復室で安静が必要です。その日は車や自転車の運転はできません。高齢の方は転倒の危険があるので原則として付き添いが必要です。

### (検査の安全性)

以下のような有害事象が発生する可能性があります。

全国調査2008～2012年までの5年間における重大な偶発症の頻度は1126万5684件中782件(0.007%)

### 1) 局所麻酔薬

ごくまれですが特異反応としてアレルギー反応が起こることがあります。最も重篤な場合は血圧低下、呼吸困難を伴うアナフィラキシーショック\*という病態になります(頻度は10万回に1回程度)。\*薬に限らず、食物アレルギー、蜂刺されなどでも起こる危険性があります。

### 2) 鎮静剤

アレルギー反応のほか、鎮静剤の作用で呼吸抑制、血圧低下、不整脈などが起こることがあります。万一に備えて薬をいつでも投与できるよう血管内に細い管を留置させていただきます。また、鎮静剤投与前後の一時の記憶がなくなることがあります(逆行性健忘)。

### 3) 検査中の偶発症

まれですが、出血、裂傷、裂孔、菌損傷、誤嚥などが報告されています。

# 上部消化管内視鏡(胃カメラ)検査時の鎮静剤使用について

経口の内視鏡検査や内視鏡治療の際に痛みや苦痛をやわらげるために、鎮静剤を使用することがあります。ご希望の方は以下の内容をよくご理解ください。

## 鎮静剤とは

鎮静剤とは精神安定剤とも呼ばれ、不安感や精神緊張を和らげる作用があります。薬の効き方は個人差がありますが、年齢によっても感受性が違います。

鎮静剤を使用した場合、眠気を催したり、ボーッとした状態になります。なかには短時間、寝てしまう方もおられますが、麻酔と異なり声をかければ応答ができます。また、検査中のことをあまり覚えていない（応答ができていても、そのことを忘れる）方もおられます。これらは検査中の苦痛を緩和するという目的にかなう作用です。

## 鎮静剤の副作用

鎮静剤に対するアレルギー反応のほか、血圧低下や呼吸抑制作用があります。そのほか、頻度は数%と考えられますが、検査後にめまい、むかつき、ふらつきを感じる方がおられます。また、ごくまれですが重度の場合、ショック状態や呼吸停止を引き起こすことがあります。

薬に対する反応は個人差が大きいので、以前に鎮静剤使用で何か問題があった方は、ぜひお伝えください。鎮静剤の種類を変更したり、量を加減します。

## 鎮静剤を使用する場合

万一来院前に備えて、事前に注射用の針を入れさせていただきます。外来通院の方では、しばらく安静にいただき、薬の効き目が薄らいで、意識がはっきりし、めまいやふらつきがない状態になってからご帰宅頂いてます。回復が遅い場合、鎮静剤の作用を打ち消す薬（拮抗薬〔きっこうやく〕）を使用することがあります。

※鎮静剤を使用した場合、飲酒したときと同様、危険なので検査当日は自動車、オートバイ、自転車の運転ができません。法的にも、鎮静剤の使用後に自動車、オートバイ、自転車を運転した場合は処罰の対象となります。

また、電車やバスを使用される場合でも、ふらつきなどの症状が残る場合がありますので、付き添いが可能な方はお願いいたします。

高齢の方（80歳以上）は、ふらつきや転倒する危険性が高いので必ず付き添い（転倒の危険から守っていただけるにふさわしい方）をお願いします。付き添いが無ければ鎮静剤は原則として使用しません。また、年齢に拘らず、検査施行医の判断で鎮静剤の使用が危険であるとした場合は、鎮静剤を希望された方であっても鎮静剤を使用しないことがあります。

# 上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査、および鎮静剤使用の同意書

私は、内視鏡検査・治療の目的、方法、危険性について別紙（説明書）記載事項を読み、説明者より説明を受けました。

I) 年 月 日に吉田病院にて内視鏡検査・治療を受けることに  
(  同意します ・  同意しません )

II) 今回の内視鏡検査または内視鏡治療の際に、鎮静剤の使用について、その必要性・効果・副作用について理解しましたので、鎮静剤の使用を  
(  希望します ・  希望しません ・  検査医師と相談します )

※鎮静剤を使用した場合は、飲酒したときと同様、危険なので検査当日は自動車、オートバイ、自転車の運転ができません。法的にも、鎮静剤の使用後に自動車、オートバイ、自転車を運転した場合は処罰の対象となります。

また、電車やバスを使用される場合でも、ふらつきなどの症状が残る場合がありますので、付き添いが可能な方はお願いいたします。高齢の方は、ふらつきや転倒時の危険性が高いので必ず付き添いをお願いします。

また、万一、緊急事態や偶発症・合併症が発生した場合には、入院や緊急の処置・手術などの適切な処置・治療をおこないます。

※別紙説明書の項目1)～3)と本用紙の項目I)～II)すべてについて理解した上で、当院で胃カメラ検査を受けることに同意いただける場合は署名をお願いします。

※検査当日、おくすり手帳をお持ちください。

説 明 日

説 明 者 \_\_\_\_\_ 同 席 者 \_\_\_\_\_

年 月 日

本人署名 \_\_\_\_\_

(代筆者 \_\_\_\_\_ 続柄 \_\_\_\_\_ )

## 上部消化管内視鏡（胃カメラ）検査当日のご注意

あなたの検査日は 月 日 時 分です。

予約時間の15分前までにお越し下さい。

朝は絶食です。ただし、毎朝服用している薬があれば、

糖尿病の薬 \* 以外 は水で服用下さい。

\* 水、お茶の摂取は検査開始2時間前までなら問題ありません。

\* 絶食の場合は糖尿病の薬で低血糖の危険があります。

\* 検査の進み具合で、検査開始時間が前後することがあります。

鎮静剤のご希望の方は、

検査後、1時間は回復室で安静が必要です。

当日の車の運転は出来ません。

(注) 80歳以上の方は特にふらつくことで、転倒して骨折する危険があるので、原則付き添いやお迎えがなければ鎮静剤は行いません。

のどの麻酔だけの方や鼻からの内視鏡で受けられた方はすぐにご帰宅でき、車の運転の制限もありません。

ただ、のどの麻酔の影響のため検査後1時間は飲食できません。

この用紙は当日、同意書とともにお持ち下さい。

また、お薬手帳をお持ちの方は当日お持ち下さい。

何かご不明の点がありましたら、ご連絡下さい。

社会医療法人平和会 吉田病院 消化器内視鏡・IBDセンター  
電話番号 0742-45-4601